

都道府県名

山 口 県

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	周南市立鹿野小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	2	1	1	2	9	13
児童数	22	24	24	43	33	38	3	187	

研究の概要

1. 研究主題

確かな学力をめざして学び続ける児童の育成
～基礎・基本の確実な習得・定着をめざして～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

・4、5、6年生・算数
児童の理解の状況に差が出やすい教科、学年であるため。

(2) 年次ごとの計画

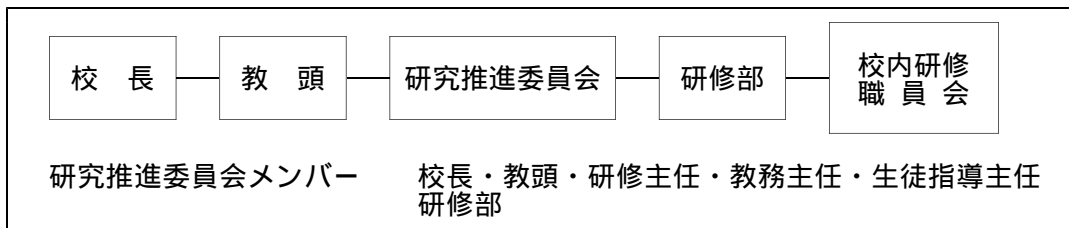
平成 14 年度	<p>テーマ 「基礎・基本の確実な習得をめざす学習指導の工夫」 ～一人一人の習熟度や学習スタイルの違いを生かした授業改善～</p> <p>研究の見通し 算数科の各単元・領域の特性や系統をもとに、学習場面を、意味を理解する場面、数学的に工夫し考える場面、習熟し活用する場面、の三場面とらえる。これらの場面に適した指導形態・指導方法を工夫し、教育評価を活用した個に応じた指導を展開したならば、基礎・基本の確実な習得につながるであろう。</p> <p>研究の内容・方法 個に応じた指導 ア 単元・領域の特性や算数科の系統を踏まえた個に応じた指導の在り方 ア) 領域と指導形態・指導方法の関連 イ) 算数科の系統を見直す重要性 イ 教育評価を活用した個に応じた指導の在り方 ア) 診断的評価・形成的評価の活用 イ) 自己評価の活用 個に応じた指導を支える評価規準 指導過程・結果を保護者に伝える通知表の在り方</p>
----------------	--

平成 15 年度	<p>テーマ 「基礎・基本の確実な定着をめざして」 ～一人一人の学力を伸ばすための家庭教育との連携～</p> <p>研究の見通し 算数科において、個に応じた学習指導を工夫し、授業改善を図るとともに、適切な繰り返し学習ができるスキルタイムを教育課程に位置付けたり、家庭学習での学習の振り返りを習慣化したりすれば、基礎・基本の確実な定着を図ることができるであろう。</p> <p>研究の内容・方法</p>
----------------	--

	<p>個に応じた指導・評価の工夫</p> <p>ア 学力診断テストにおける学力診断カルテの作成と変容調査</p> <p>イ 学力診断カルテにもとづく個に応じた指導の工夫</p> <p>(ア) 効果的な指導形態・指導方法の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 多目的スペースの有効活用 ・ コンピュータやプロジェクターを利用したコンテンツの開発等 <p>(イ) 単元構成の工夫</p> <p>(ウ) 学期末、学年末の総括的評価を加えた評価規準の見直し</p> <p>繰り返し学習（スキルタイム）の方法・内容</p> <p>ア 教育課程の見直し</p> <p>イ 領域別、習熟度別スキルプリントの作成・管理</p> <p>ウ スキルタイムの進め方・評価</p> <p>家庭学習のすすめと保護者への啓発</p> <p>ア 授業と連携した家庭学習</p> <p>(ア) アンケートによる実態把握</p> <p>イ 家庭での自主学習への啓発</p> <p>(ア) 学習計画表による啓発</p> <p>(イ) 学級通信・算数通信による啓発</p>
--	--

平成16年度	<p>テーマ</p> <p>「基礎・基本を自らの学びに生かす」</p> <p>～学びの習慣化と自己教育力の育成～</p> <p>研究の見通し</p> <p>一年次、二年次で蓄積された自己評価力と教師の教育評価をもとに、三年間の学力を自己診断することにより、自己の学力の成果をとらえさせたり、基礎学力を生かした、児童の生活に生きる授業構想、指導法を展開したりすることができれば、わかる喜び、できる喜びを実感し、生涯にわたって学び続ける児童を育成することができるであろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>個に応じた指導</p> <p>ア 基礎学力を生かした生活に生きる授業構想・指導法の工夫</p> <p>学力診断カルテを用いた自己診断</p> <p>ア 三年間の学力診断テストの総括</p> <p>イ 自己診断による学習傾向と成果の把握</p> <p>日々の繰り返し学習の習慣化による自己教育力の育成</p> <p>ア 家庭教育との連携による学びの習慣化</p> <p>イ スキルタイムの有効的活用</p> <p>三年間の学習指導・評価の成果とまとめ</p> <p>ア 研究紀要の作成と成果の報告・提供</p> <p>イ 総括的評価を踏まえた評価規準の見直しと作成</p>
--------	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

<p>(1) 個に応じた指導・評価の工夫</p> <p>学力診断カルテの作成と活用</p> <p>学力診断カルテに、学力診断テスト（学年末に実施）と教科書指導書付録のテスト（単元終了時・学期末に実施）の結果を記録した。その結果をもとに、スキルタイムや家庭学習を利用して個に応じた課題を与えることができ、苦手な領域の克服や発展学習等による思考力の育成に努めている。</p> <p>学力診断カルテに、児童の学習傾向や変容、主なつまづき等を記録することにより、次年度に児童の実態を的確に把握することができ、診断的評</p>
--

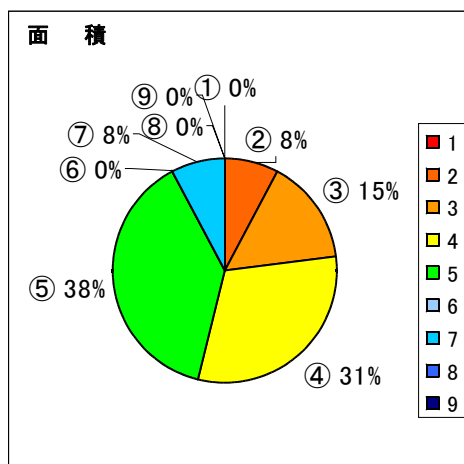
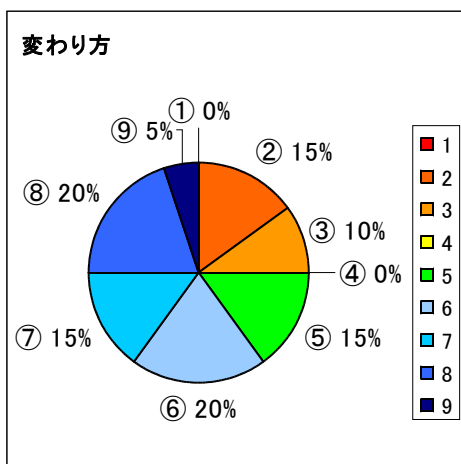
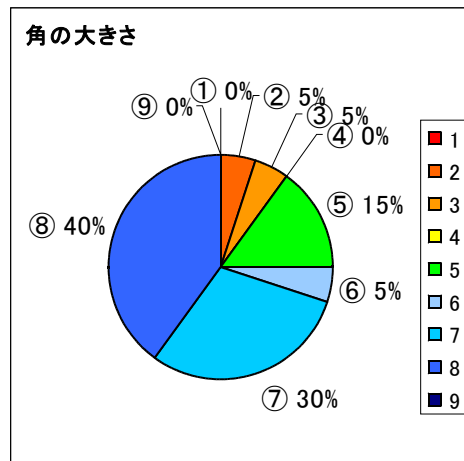
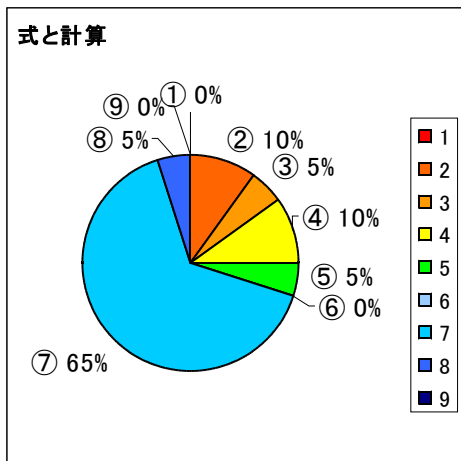
価の資料として活用することができる。

教科書指導書付録のテスト（単元終了時・学期末に実施）の結果を比較することにより、学力の定着度を検証することが可能となった。

事例) 第4学年

C : 50点未満 B : 50点以上80点未満 A : 80点以上

A C B C A B C B
C B A A B A C A



単元終了時と学期末を比較して、得点が上がっている児童が過半数に達している単元、「式と計算」、「角の大きさ」、「変わり方」については、繰り返し学習（スキルタイム）や家庭学習の成果といえる。一方、得点が下がっている児童が過半数に達している「面積」や、得点が上がっているものの、Aが過半数に達していない「変わり方」については、今後、重点的に繰り返し学習が必要であるなどの課題をつかむことができた。

診断的評価の活用

単元始めに、領域の系統（出席番号順・等質・習熟度別グループ）や課題（課題別グループ）を踏まえたレディネステストを実施することにより、児童の実態を把握したり、グループ（等質・習熟度別グループ）分けの資料としたりする。児童にとっても、これまでの学習を振り返ったり、これからの学習への課題をもち、課題解決のために自分に合ったコースを選択したりすることができる。この活動の積み重ねにより、自己評価力が向上し、レディネスに応じた適切なコースを選択できるようになってきたと感じている。

形成的評価の活用

小単元の変わり目に形成テストを実施して、グループ（到達度別）を変更することもある。また、習熟度別グループにおいて、指導計画によっては、小単元途中でも、グループの行き来を自由にした。これにより、児童は自分の学習状況を振り返り、主体的に学習に取り組むようになったと感じている。

じている。

毎時間の授業実践を記録（少人数指導実施記録）することにより、児童の学習の様子や変容を振り返り、次時の授業改善へとつなげた。これは教師間の情報交換の一つとしても役立っている。また、昨年度の少人数指導実施記録から、児童のつまずきなどを事前に把握することができ、効果的な指導形態・指導方法を探ることができた。

自己評価・授業評価の活用

カード等を利用して学習を振り返らせる活動を継続的に行うことにより児童の自己評価力の育成を図った。自己評価力は少人数グループでの正しいコース選択だけでなく、児童の主体的な学習につながる重要な力である。しかし、授業評価と併せて時間の確保が難しく、また評価項目の内容に工夫が必要であるため、今後も実践検討していく必要がある。

総括的評価の活用

日々の少人数指導実施記録や学期末、学年末の総括的評価を活用することにより、評価規準において、小単元で重点を置く観点や、「努力を要する」児童への手だて、「十分満足できる」と判断できる児童の様相などを見直すことができ、より児童の実態に合うものとなるよう改善している。

(2) 繰り返し学習（スキルタイム）

第5、6学年では、創意の時間（金曜日6校時）を利用して、繰り返し学習や補充学習、発展的学習に取り組んでいる。児童もいつもと違う雰囲気での学習に意欲的であった。

少人数担当が、「算数パワーアップ大作戦」と称して、領域別、習熟度別スキルプリントを準備している。児童は、家庭での自主的な学習として取り組んでいるが、個人差や単元による意欲や興味に差がある。

朝自習の時間（8：15～8：30）のうち、火、木曜日をスキルタイムと称して、まず計算、スキルプリント、計算ドリルなどの計算練習や、授業の補充的な内容、既習の内容の復習を計画的に実施している。学力診断カルテによるデータ検証からも、学力の定着に効果的であったと確信している。

第5、6学年では、スキルタイムをTTで実施することにより、少人数指導でもとらえられていない児童の発想やつまずきを把握することができ、次時の授業に役立てることができた。

(3) 家庭教育との連携

一学期に、家庭学習についてのアンケートを実施し、児童の家庭学習の様子や保護者の思いを把握した。その結果をもとに、家庭学習の内容や時間等の共通理解を図り、全校的な取組として実施した。また、保護者に課題に対する意見や児童の様子をカードに記入してもらうなどして、連携を図った。学級通信や算数通信により、児童の学習の様子やつまずき、家庭学習でのポイント等を知らせることにより啓発に努めている。

学期ごとに学習計画（学習内容・主な学習のねらい・生活目標など）を知らせることにより、児童が保護者と話し合いながら具体的な目標をもち、家庭学習における継続的な取組につながることをねらった。保護者からの意見を参考にしてその改善に努めている。

上記の成果については、年度末に家庭へのアンケートを実施して検証する。

<保護者からの気付き(2学期)>

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none">○ 子どもにとって、何をどのように勉強すればよいのかという指針を示すのに役立つもので、大変よいと思う。○ 最低これだけは責任をもってやり遂げなければいけないという自覚をもたせる上でも、必要なことだと思う。○ 学習計画表があり、毎週学級便りがあるので、今どんな学習をしているのか、次に何を学習するのかのかわかり、復習やちょっとした予習をさせられるので大変助かっている。○ 学習はチェック表や算数通信もあり、親としては、生活面より目をかけやすかったように思う。○ 教科別を書いてあるのでわかりやすく、今、どんな内容を学習しているのかだいたいわかるのでよかった。 | <ul style="list-style-type: none">・ あまりに文字が多すぎて、内容を把握するのが大変。子どもは、もっと理解に苦しむのでは？・ 目につくところに貼っていたが、ほとんど見ることはなかった。・ ほとんど活用していない。・ 計画表に返して実行しにくい日もあった。・ 配布の意図が分からない。・ 学校でたくさん勉強していることは理解したが、それをどのように家庭で活用すべきなのか？具体的に指針と方法を示してもらいたい。・ 学級便り（週）で、学習の進み具合を見て確認することの方が多かった。・ 学期でまとめるのもよいが、学級便り（週）で、単元ごとにめあてや内容を詳しく知らせてもらった方が、確実に知ることができてよいのではないか。 |
|--|---|

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習だけでなく生活目標があることにより、いつも以上に気をつけて努力していたように思う。 ○ 具体的な目標なので取り組みやすく、自分で立てためあてに対して、「もう少し頑張ればよかった。」と、次へのやる気につながりそう。 ○ 生活面では、めあてがあることで、何か一つけじめが付くように思うので、よい取組だと思う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 「学習のめあて」「生活のめあて」を書くところを別紙にするなどして、壁に貼っても一目でわかるようにしたらよいと思う。 ・ 通知表は年三回なくても、二回でも一回でもよい。それに代わる個別ファイルなどがあれば、なくてもよいと思う。 ・ 学習面では、毎日の宿題（音読・漢字・計算）を続けてほしい。 |
|--|--|

2. 今後の課題

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"> (1) 個に応じた指導・評価の工夫
二年間の実践をもとに、少人数指導実施記録や評価規準表から、児童の生活に生きる授業構想、指導法の工夫を図る。
操作活動やコンピュータを利用したコンテンツの開発に努める。
各種評価活動を充実させ、評価計画を作成することにより、より個に応じた指導をめざして授業改善に努める。
学力診断カルテや自己評価による自己診断を行い、今後の学習の在り方を探らせる。 (2) 繰り返し学習・家庭学習の充実
スキルプリントの作成と管理を行い、自主学習を推進する。
保護者アンケート（2月実施）をもとに、家庭学習における取組の変容を把握して、より効果的な家庭学習との連携を図る。
学びの習慣化につながる各種通信の在り方を検証する。 (3) 三年間の学習指導・評価の成果とまとめ
研究紀要の作成と成果の報告、提供に努める。
総括的評価を踏まえた評価規準の見直し、作成を行う。 |
|--|

学力等把握のための学校としての取組

- | |
|--|
| <p>学力診断テスト（2月）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学力向上をデータから検証するため。 <p>教科書指導書付録テスト（単元終了時・学期末）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学力の定着度をデータから検証するため。 ・ 繰り返し学習、家庭学習の有効性を検証するため。 ・ 今後の繰り返し学習、家庭学習の参考資料として活用するため。 |
|--|

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 平成15年8月12日（火）
研修視察 大島町教務主任会（5人）
概要説明（少人数指導、評価の仕方等の具体的な取組について） 2. 平成15年10月30日（木）
公開授業発表会 校外参加者15人
6年生授業公開（少人数指導 算数科）
研究発表 研究協議
指導講評（周南教育事務所 指導主事）
指導講話（広島大学教育学部附属東雲小学校 教官 松浦武人 先生） 3. 平成15年12月4日（木）
研修視察 山門三池郡小学校校長会（26人）
概要説明 質疑応答
授業参観（5年生 少人数指導 算数科） 4. 平成16年1月23日（金）
周南管内学力向上フロンティア事業地区協議会（53人）
実践発表 研究協議 5. ホームページ作成
本年度末に公開予定 |
|---|

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無